

五年紀 念寮 歌

武夫原歌の譜

一

託摩<sup>たまたま</sup>が原に空高み

龍南<sup>りゆうなん</sup>永遠<sup>とこほ</sup>の春にして

至純の血潮薫らして

驕る白馬の聲すめご

理想に燃ゆる胸搖らし

歌びあかさん紀念祭

二

武夫原花の色匂ひ

二月の花に勝れども

花にそむきし戦の

龍嶺にしき紅に

汚濁の時に國すれば

二十五年は永かりき

三

時乾伸に巡りつゝ

學びの人はうつれども

巍々たる寮舎窓閉めて

剛毅の徳はいやたかみ

朴訥の氣はすこやかに

變りなかりし我がまもり

四

夫れ我が齡うら若し  
節を守りて邪を惡む  
塵世に住めば詮もなく

心たゞしく義を慕ひ  
救世の氣はほとばしれ  
百鬼屠りて劔赤し

五

嗚呼戰の夢の跡  
互に友と緒を固む  
月に無言の教あり

榮はるの繪卷をくりかへし  
勝利かちの兜かぶとに照りかへす  
不戰は人の爲めならず

六

されど今宵は吾妻なる  
懦弱の人の末濁る  
歡樂しのぶ人ありと

月代つきしろ狭く太刀細き  
都に住みて龍南の  
知らば歌へよ紀念祭